

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人まくとう一

代表者・役職名 氏名 代表理事 市原信行

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

こころ支援・子どもハウスプロジェクト(7月～12月まで)

### 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

沖縄県うるま市子ども支援と生活困窮世帯への支援について

このプロジェクトは去年5月～12月まで毎週火曜日、週1回小学生30人を対象とし開催いたしました。旧石川地区地域の小学生達を対象とし「地域の方が地域の子を見守り、育ていく」事をスタンスとして進めました。どの小学生にも対応しており、そうする事でいじめや差別の偏見を避ける為に間口を広げました。本来の目的は孤立児、困窮世帯、ヤングケアラー等に対して支援をアウトリーチしていく事であり、誰一人取りこぼしの無い社会を目指すプロジェクトです。そして、このプロジェクトは単発的なものでは終わらず、長期戦で実践する必要があると考えます。そうする事によって深刻に困っている子ども達や世帯へ繋がり、支援ができるようになるからだと考えます。今後も継続して支援を行っていく所存です。

### 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

「結果」

- ・7月5開催 121人・8月6開催 38人(夏休みの時期・台風2日間お休み有)・9月4開催 154人
- ・10月5回開催 178人・11月4回開催 169人・12月3回開催 138人
- ・地域住民から調理の方へ寄付や(食材寄贈)がありました。

「成果」

- ・このプロジェクトを通して子ども達や困窮世帯は、栄養改善・学習能力向上・健康増進・家庭の経済負担軽減が得られたと思います。
- ・(社会的な変化)子ども食堂と子どもの居場所を通してCSW、行政、地域社会の連携意識が増したと考えます。
- ・「効果」まだまだ変化の余地はありますが、地域の連携、地域の大人が地域の子を育む事への意識向上。

### 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

(スタッフやボランティアの確保)

運営にはスタッフやボランティアの協力が必要です。今後は、スタッフやボランティアの募集や育成に力を入れることで、運営の安定性や質の向上を図る必要があります。

(資金調達)

子ども食堂や居場所の運営には資金が必要ですが、資金不足が課題となることがあります。今後は、地域や企業からの支援や寄付、助成金の活用など、持続可能な資金源の確保が重要と考えます。

### 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

